

# 国語科学習指導案

日 時 平成30年11月8日(木) 5校時

学 級 1年2組(男子14名 女子18名 計32名)

場 所 1年2組教室

授業者 坂本 晶子

- 1 単元名 蓬萊の玉の枝「竹取物語」から(教科書単元 5いにしへの心に触れる)  
補助教材「ビギナーズ・クラシックス竹取物語」角川書店

## 2 本単元について

### (1) 教材観

本単元は、学習指導要領の内容〔C 読むこと〕(1)ウと、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)を指導するものであり、中学校で学習する最初の古典作品である。

「竹取物語」は、千年以上もの時を超えて読み継がれている日本最古の物語であり、本単元では、翁が竹の中から女の子を得る場面、貴公子の一人「くらもちの皇子」の架空の冒険談の場面、そして、かぐや姫昇天後の帝の行動を描いた場面が取り上げられている。登場人物の行動からは、人間の持つ欲望、喜びや悲しみといった感情など、今も昔も変わらない人間の心を読み取ることができる。

古典への興味と親しみを持たせることができるように、教科書では省略されている事柄も資料として用いながら「人物像分析表」にまとめる言語活動を行うことで、主体的・対話的で深い学びの実現を目指したい。

### (2) 生徒観

本校の国語科で目指す生徒像は以下のとおりである。

- ①授業や家庭学習で身に付けた基礎的・基本的な知識・技能を活用して、根拠を明らかにして自分の考えをまとめたり、想像力を豊かに働かせて自分の思いを表現したりすることができる生徒。
- ②考えたことを相手にわかりやすく説明したり、聞き取りやすく発表したりすることができる生徒。
- ③授業での話し合いや読書を通じて、自分の考えをより深めたり、修正しながらさらに高めたりすることができる生徒。

本学級の生徒は、意欲的に授業に取り組んでおり、学級内の人間関係も良好である。自分の考えを臆せず発言できる反面、根拠をもとにして考えることが苦手である。例えば、登場人物の心情を考える際には、本文の描写を根拠とするのではなく、思いつきや自分の経験等に基づくイメージを根拠としてしまう生徒が少なくない。そのため、授業では、根拠となる本文の描写に線を引かせてから考えさせたり、考えを整理するためにノートに記入してから発言させたりするようにしている。また、自分の考えを的確な表現で述べるための語彙が乏しいことも課題である。本単元の指導をとおして、目指す生徒像に一步でも近づけるように努力したい。

### 3 単元の指導目標および評価規準

#### (1) 指導目標

ア「竹取物語」の内容や表現に関心を持ち、読書への興味を深めることができる。

[国語への関心・意欲・態度]

イ 場面展開や登場人物の行動・心情描写に注意して読み、内容の理解に役立てることができる。

[読むこと]

ウ 歴史的仮名遣いや文脈に即した古語の意味に注意しながら音読することができる。

[我が国の言語文化に関する事項]

#### (2) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
①現代語訳や資料を手がかりにして文章を読み、おもしろさを味わおうとしている。 ②他者と考えを交流し、自分の考えを深めている。	①現代語訳や脚注などを参考にして、語句の意味を的確にとらえている。 ②場面展開や登場人物の考え方などをとらえ、根拠をもとに自分の考えをまとめている。	①文語のきまりに注意しながらリズムよく音読している。

### 4 単元の指導計画（全5時間）

時	学習内容	観点			評価規準
		関	読	言	
1	・単元の学習計画と目標を確認し、見通しを持つ。 ・「竹取物語」のあらすじと文語のきまりを学ぶ。	○		◎	・学習の見通しをつかみ、積極的に学習に取り組もうとしている。 ・文語のきまりを学び、その知識を身に付けようとしている。
2	・冒頭場面とくらもちの皇子の冒険談の場面の現代語訳を確認し、音読する。 ・5人の貴公子にかぐや姫が出した難題と、それぞれの顛末を確認する。		◎	○	・文語のきまりに注意しながらリズムよく音読している。 ・登場人物の言動や行動の意味などを考え、内容を理解している。
3 本時	・くらもちの皇子の人物像を考え、意見を交流する。	○	◎		・登場人物の言動や行動をもとに、どんな性格なのか考えている。 ・登場人物の人物像について、他者と考えを交流し、自分の考えを深めている。

4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふじの山の場面の現代語訳を確認し、音読する。</li> <li>・かぐや姫が昇天したあとの帝の心情を想像する。</li> </ul>		◎	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文語のきまりに注意しながらリズムよく音読している。</li> <li>・登場人物の言動や行動の意味などを考え、内容を理解している。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かぐや姫の存在は周囲の人々にとってどんなものだったのかを考え、意見を交流する。</li> </ul>	○	◎		<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの読みをもとに、かぐや姫の存在の意味を考えている。</li> <li>・かぐや姫の存在の意味について、他者と考えを交流し、自分の考えを深めている。</li> </ul>

## 5 本時の指導

### (1) 本時の目標

ア くらもちの皇子の行動や言動をもとに性格を考え、人物像をまとめる。

イ 他者の意見を聞いて内容理解に役立てるとともに、自分の考えをさらに深めることができる。

### (2) 指導の構想

「思考力・判断力・表現力」を育てるための言語活動のポイント

1	文章を読み、登場人物の言動や行動描写を根拠として考えを持ち、「人物像分析表」にまとめる。
2	互いの考えを交流し、自分の考えを深める。

### (3) 本時の評価基準

観点	B おおむね満足できる	努力を要すると判断された生徒への手立て
国語への関心 ・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の人物像について、他者と考えを交流し、自分の考えを深めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と異なる意見とその根拠に注目させる。</li> </ul>
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の言動や行動をもとに、どんな性格なのか考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な登場人物の言動や行動を示し、性格を想像させる。</li> </ul>

(4) 本時の展開

学習過程	学習内容および学習活動	指導上の留意事項	◇教具／ ◆評価
導入 5分  見通し	1 既習内容と学習課題の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くらのもちの皇子の架空の冒険談の内容と、策略が破れた状況を確認する。</li> <li>・他教材で作成した「人物像分析表」を示し、本時の見通しを持つ。</li> </ul>	◇他教材の「人物像分析表」 ◇学習プリント
くらのもちの皇子の性格を考え「人物像分析表」にまとめよう。			
展開 40分  課題解決	2 学習課題の追求 (1) 補助教材を読み、策略が破れたあとのくらのもちの皇子の行動を確認する。 (2) くらのもちの皇子の性格を考える根拠となる言動や行動を見つける。 (3) 根拠をもとに、「人物像分析表」をまとめる。  言語活動1 文章を読み、登場人物の言動や行動描写を根拠として考えを持ち、「人物像分析表」にまとめる。  3 学習課題の深化 (1) グループ内で考えを交流し、グループ版「人物像分析表」を完成させ、各自の考えを可視化する。 (2) 各グループの「人物像分析表」を確認し、自分の考えを深める。  言語活動2 互いの考えを交流し、自分の考えを深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くらのもちの皇子の玉作りの匠たちへの仕打ち、内心描写、深山に逃げ込む様子に注目させる。</li> <li>・性格を表す様々な表現について想起させる。</li> <li>・くらのもちの皇子の二面性に気づかせる。</li> <li>・自分の考えの根拠を挙げながら人物像を述べさせる</li> <li>・他者の考えから気づいたことをメモさせる。</li> <li>・代表者は黒板にグループ版「人物像分析表」を掲示し、発表する。</li> <li>・出された考えを教師が分類・整理し、価値づける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆根拠となる行動や言動描写に線を引いている。(学習プリント)</li> <li>◆根拠をもとに性格を考え、人物像をまとめている。(学習プリント)</li> <li>【読む能力】</li> <li>◆考えを紹介し合い、交流している。(観察)</li> <li>◆他グループの発表を真剣に聞き、考えを深めている。【関心・意欲・態度】(観察)</li> </ul>
終末 5分  振り返り	4 まとめ (1) ひとつの行動や言動について、多様なとらえ方があることを確認する。 (2) 時代が変わっても、恋愛に夢中になったり自分の弱さに負けてしまったりする人間の心は変わっていないことを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習で理解できたこと、自分の考えが広がったり深まったりしたことを記入させる。</li> </ul>	